

テーマ	標準原価計算（Ⅱ）
-----	-----------

1. 標準原価計算を採用している当社の次の資料により、直接材料費差異と直接労務費差異を分析しなさい。

- 製品の標準原価カードは次のとおりである。

<u>標準原価カード</u>				
	(標準単価)		(標準消費量)	
直接材料費	@ 100 円	×	5kg	= 500円
	(標準賃率)		(標準直接作業時間)	
直接労務費	@ 200 円	×	10時間	= 2,000円
	(標準配賦率)		(標準直接作業時間)	
製造間接費	@ 300 円	×	10時間	= 3,000円
単位当たり標準製造原価				<u>5,500円</u>

- 当月の生産データは次のとおりである。

月初仕掛品	20個	(50%)
当月投入	120個	
合計	140個	
月末仕掛品	40個	(50%)
完成品	100個	

※ 材料はすべて工程の始点で投入している。

※ () 内の数値は加工進捗度である。

- 当月の実際データは次のとおりである。

直接材料費：	材料実際価格	@ ¥110	材料実際消費量	620kg
直接労務費：	実際賃率	@ ¥210	実際作業時間	1,080時間
製造間接費：	実際発生額	¥350,000		

- 直接材料費差異

総 差 異	円 (有利 ・ 不利) 差異
価 格 差 異	円 (有利 ・ 不利) 差異
数 量 差 異	円 (有利 ・ 不利) 差異

- 直接労務費差異

総 差 異	円 (有利 ・ 不利) 差異
賃 率 差 異	円 (有利 ・ 不利) 差異
時 間 差 異	円 (有利 ・ 不利) 差異